



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 巻頭言

### 「歯科医療教育における歯科病院の役割」

歯科病院長 岡野 友宏

私たちは歯科医療教育の革新を目指して様々な取り組みをしてきました。このたびも臨床実習終了の評価をテーマに、大がかりなトライアルが行われようとしています。さて、従来から歯学部附属病院は歯科医療教育の中核に位置すると考えられてきました。



「大学設置基準」第39条では医学又は歯学に関する学部は附属施設として附属病院を置くこととされ、また「医療法」では病院は医業又は歯科医業を行う病床数20床以上の入院施設(病棟)を持つものとされます。「設置基準」は大綱化以来、改正がたびたび加えられていますが、附属病院が必要であるということに変わりはありません。ただし最近では「医学部歯学部附属病院」とか、「〇×大学病院」として医学部と歯学部の附属病院は1病院に統合され、また本学もCサイトの再開発計画の中で、昭和大学病院との統合が予定されています。これは従来の歯学部独自の附属病院の在り方に合理性を見いだせないからとも考えられます。欧米・東南アジアでは私の知る限り、デンタルホスピタルは入院施設のない巨大なクリニックであり、ここで歯科に特化した臨床教育を行い、隣接するジェネラルホスピタルで大きな手術を伴う口腔外科や全身管理を研修しています。病棟実習を通じて、歯科一般診療における全身管理を安全に行うための基礎を学び、また医師とのコミュニケーションを円滑に行う技術を学びます。

いま本歯科病院での歯科医療教育はどうあるべきでしょうか。本院の主体は患者さんであり、学生・研修医であります。この両者にとって分かりやすく合理的でなければなりません。大学の附属施設ですから、歯科医学研究の場であることも忘れてはなりません。歯科医療教育で重要な部門は第1に予防から初期治療を行う診療科です。「高度・先進」を求める必要はありませんが、質の高い診療は常に求められます。学生や研修医はここで多くの時間を費やして基本的な歯科医療技術を修得します。第2に、特別な配慮を必要とする患者さんの一般歯科診療を行う部門です。現

在は様々な基礎疾患を抱えながら生活をする方、障害をもち咀嚼・嚥下に不自由な方や在宅・在所高齢者が増加しています。そうした方の歯科ニーズに応えるためには、全身管理を身に付けた歯科医師が専門的な立場で歯科診療を支援するとともに主体的に診療に参加する必要があります。地域との連携が不可欠ですから、大学を含む公共性の高い診療施設がこうした診療部門を運営することになります。将来を背負う若手歯科医師が必修とすべき領域です。3番目が高度・先進的な歯科診療を行う部門です。歯科特有の専門診療もありますし、医科の一部門ともいえる診療科もあります。後者は医科に診療室と病棟を確保できるならば、医科の中で活動する方がはるかに質の高い診療が期待され、また患者さんにとっても利益が大きいといえます。医科の医療技術の活用により歯科対象患者さんの幅を広げ、また高度な技術を応用することで歯科医療全体を底上げするという副産物も期待できます。

歯科医療教育は歯科病院を核としながらも附属病院や地域に発展させることが求められる時代になりました。このような教育は単科の歯科大学ではできない、昭和大学だからこそできることでもあります。全学的な理解を得ながら一日も早くこうした新しい歯科医療教育とそのための診療体制を築いていきましょう。

## 口腔医学教育の講演会が行われました

口腔リハビリテーション科 高橋 浩二

超高齢社会が進行し、全身と関連する口腔病変が増えるという疾病構造の変化が指摘されています。

現在、本学では、岩手医科大学を含む8大学と連携して、口腔と全身の疾患の関連について十分な知識を持ち、口腔疾患の予防、治療ができる歯科医師を育成する「口腔医学教育」の確立を目指した取り組みを行っています。この取り組みの一環として、2月10日 岩手医科大学 歯科内科分野教授中居賢司先生をお招きして、「岩手医科大学における口腔医学教育・診療にかかわる循環器診療の進歩とパラダイムシフト」というタイトルで「口腔



医学教育」の取り組みについてお話し頂きました。

講演の冒頭で中居先生は岩手医科大学と昭和大学の創立がほぼ同時期であること、岩手医科大学の創立者三田俊次郎先生と本学創立者上條秀介先生の理念がそれぞれ「誠の医師」と「至誠一貫」で建学の精神が極めて似ていること、医学部、歯学部、薬学部を擁する医系総合大学であることなど両校の共通点を強調されました。続いて岩手医科大学歯学部で行われている口腔医学教育から先生のご専門である高解像度心電計についての最新の知見まで、筋金入りのラガーマンという噂どおり、熱く語って頂きました。とくに、機器がなくても診察できる技量を身につけさせるという教育はたいへん興味深い内容で、今後の「口腔医学教育」の1つの指針になると思いました。中居先生ありがとうございました。

## 教室紹介 歯周病学教室

歯周病学教室 山本 松男

歯周病は糖尿病や動脈硬化症など全身との関連性が指摘され、歯周病の予防や治療は国民の健康生活を維持する上で重要な役割を果たしています。

現在、歯周病学教室は教員14名、大学院生13名で構成され、診療、教育、研究に励んでいます。症例検討会で各自の症例について医局全員で検討し、また抄読会においては最新の研究や臨床技術をとり込む事で、常に質の高い歯周治療を行う事を医局員全員が心がけています。その成果として、歯周病専門医指導医、専門医、認定医取得人数も年々増加してきました。

研究においては、超高齢社会を見据えた歯周病治療法や予防法の基盤となるテーマを大学院生を中心に展開しています。脂質代謝と歯周病との関係や接合上皮の機能解明、細菌学や骨代謝などとの関わりなど分野横断的に研究を広げ、歯周病の原因究明から治療への応用を目指しています。また、チェアサイドにおける歯周病迅速診断システムの開発や新しい歯周組織再生療法などの治験を積極的に実施し、歯周病診断や治療の進歩に貢献しています。



## ミシガン便り

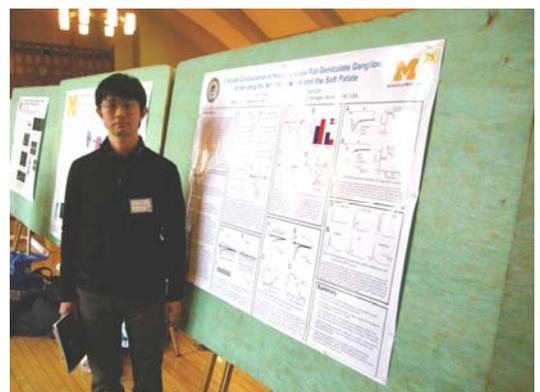
口腔生理学教室 中村 史朗



2009年1月よりミシガン大学歯学部のRobert M Bradley教授のもとに留学させていただいています。Bradley教授は味覚生理学研究の第一人者で、これまで非常に多くの優れた業績を残しています。私は現在、味覚神経細胞に発現するイオンチャネルの解析をテーマに実験を進めています。

ミシガン大学歯学部はミシガン州アナーバー市の中心部に位置するセントラルキャンパスの一角にあります。キャンパス内の豊かな樹木が茶色い古風な建物と調和して非常に美しい雰囲気を醸し出しています。現在は冬ですが、樹木の枝に積もった雪が美しさを一層引き立ててくれます。歯学部は病院、講義棟および研究棟から成り、建物自体は古いのですが、研究施設や実験機器等はとても充実しています。大学ではほぼ毎日のようにセミナーが開催されており、興味のある内容であれば他の学部のセミナーでも自由に聞くことができます。そこには研究者だけでなく多くの学生や大学院生も参加しています。ラボの方々はとてもいい人ばかりでストレスを感じず研究に打ち込むことができます。このような非常に恵まれた環境のおかげで留学生活を送ることができ、とても幸せに感じています。残り1年弱の留学生活でさらにいろいろなことを感じたり学んだりできればと思っています。

最後になりますが、留学の機会を下さった昭和大学、井上富雄教授、Bradley教授に心から感謝申し上げます。



## 歯学部 of 英語教育

副教育委員長 山田 庄司

歯学部では本年度4名の学部学生が海外の提携校に短期留学しています。また、昨年度の第102回歯科医師国家試験から英単語の問題が1問出題されているようになり、薬学部では卒後の就職でTOEICの得点が必須条件となっているなど、実用的な英語能力が要求されるようになりました。昭和大学ではこうした社会的ニーズに合わせ、昨年度から、学部を超えた習熟度別クラス編制のためのTOEIC BRIDGEテストが入学直後に、行われています。学年末にはTOEIC IPテストを行って、学生の成績評価の一部に使うと共に、歯学部では2年次の習熟度別のクラス分けに使用しています。また、全学部の学生に開放されている英語の自己学習プログラムに加え、このTOEIC IPテストを希望する全学生に開放して継続的な英語学習を促しています。

今後ますます学生の英語能力が向上して、学生の国際交流が進展することを期待しています。

## 選抜Ⅰ期試験が実施されました

入試常任委員 五十嵐 武

平成22年度歯学部選抜Ⅰ期試験、大学入試センター試験利用Ⅰ期試験が、去る1月30日(土曜日)に東京会場(旗の台キャンパス)、大阪会場(新大阪丸ビル新館)、福岡会場(南近代ビル)の3会場ですべて同時に実施されました。選抜Ⅰ期の志願者は全体で245名となり昨年より61名減少しました。また、センター試験も昨年より22名減少し、101名の志願者となりました。受験生はそれぞれ緊張した面持ちで、午前8時30分からの小論文とそれに続く、学科試験(英語、数学、理科)、面接試験を受験しました。今回の試験では、試験当日のインフルエンザの影響を懸念しておりましたが、いずれの会場でも該当者がなく、無事に試験を終了することができました。合格発表は選抜Ⅰ期試験が2月2日(火)に行われ、合格者70名(男子43名、女子27名)を発表しました。また、センター利用入試の合格発表は2月6日(土)に行われ、25名(男子13名、女子12名)の合格者を発表しました。試験実施にご協力くださいました職員の皆様には、この場を借りてお礼申し上げますとともに、今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

また、2月28日(日)には、選抜Ⅱ期試験、大学入試センター試験利用Ⅱ期試験、編入学Ⅱ期試験が東京会場(旗の台キャンパス)で実施(出願期間:2月9日-24日、合格発表:3月2日)されますので、関係者への周知ならびに、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 歯科医師国家試験が実施されました

教育委員長 井上 美津子

平成22年2月6日(土)、7日(日)に第103回歯科医師国家試験が実施されました。東京では雪の心配はなかったものの、初日は風の強い寒い一日でした。昭和大学は巣鴨の大正大学が試験会場のため、前日から近くのホテルに宿泊する学生もありました。当日学生たちは、試験開始前に立川学生部長の激励を受け、6年間の勉学の成果を発揮すべく厳粛な態度で試験に臨みました。

今回の国家試験から出題基準も変更され、また必修も前回の50問から70問に増えて、受験生の不安も大きかったものと思われます。学生たちは、試験終了翌日の8日に歯科病院の臨床講堂に集合し、自己採点を行いました。3月29日の合格発表までは落ち着かないことと思いますが、あとは結果を待つのみ！受験生の皆さん、また6年間の指導に関わっていただいた教職員の皆様、お疲れ様でした。

## CBT が実施されました

CBT 委員長 五十嵐 武

去る2月3日(水曜日)に平成21年度共用試験CBTを実施し、4年生99名が遅刻、欠席もなく全員無事に受験しました。当日は旗の台校舎4号館600号教室を受験会場とし、事前説明の後、受験生は9時30分に試験を開始し、全320問の問題に取り組みました。試験は6つのブロックに分かれており、各ブロック60分の試験時間で、午前に1-3ブロックが、午後4-6ブロックが実施されました。

学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT事前説明会の開催や受験会場でのCBT体験テストを経験していたこともあって、これといった混乱もなく、無事試験を終了することが出来ました。本年度は試験監督を3名(昨年は2名)に増員し、試験中の学生の対応に当たったこともあって、円滑に試験を実施することができました。当日は、共用試験実施評価機構から鹿児島大学の伴教授と鶴見大学の池田講師がモニター委員として派遣され、本学のCBT実施状況を監視されました。試験終了後の反省会では、学生の受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。

CBT実施に当たっては、基礎系教員に試験監督をお願いし、試験準備は教務課の和田さん、副実施責任者の北川准教授、荒木准教授、サイトマネージャーの馬谷原助教と五十嵐(実施責任者)で行ってまいりました。ご協力いただいた先生方には、この場を借りて御礼申し上げます。

**大学院歯学研究科入学試験が実施されました**  
大学院運営委員会 上條 竜太郎

平成21年度大学院歯学研究科入学試験(第1期ならびに2期)が、それぞれ12月5日(土)と2月20日(土)に実施されました。志願者数は第1期が13名(社会人特別選抜4名を含む)、第2期が17名(社会人特別選抜5名を含む)、合計30名でした。試験は英語(一般英語・科学英語)と専攻科目について実施され、30名全員が合格しました。この結果、来年度の歯学研究科在籍学生数は、111名(本年度は105名)となります。また、全合格者30名のうち、本学歯学部出身者は25名、他大学出身者は5名でした。入学式は4月3日(土)に執り行われます。

**IWAIT(国際映像技術学会)2010に参加して**  
口腔衛生学教室 弘中 祥司



みなさま国際映像技術学会?と思われる方が多いでしょう。確かに歯科関係者は、東京歯科大と我々の2演題だけでした。歯科医学研究の中でも、我が国が世界をリードしている分野はそう沢山ある訳ではないですが、ITの分野では世界をリードしている大学は沢山あります。その中でも、慶應大学理工学部の先生方と共同研究させて頂く機会に恵まれ、今回、報告させて頂きます。

デジタルカメラで、顔を認識して笑顔になると自動的にシャッターが切れる技術はご存知でしょうか?この画像分析技術こそ、まさにこの学会の中心でありまして、詳細なアルゴリズム計算式などは全く理解できませんでしたが、応用すれば、歯科の中でも画像診断をITがアシストする時代もそう遠くないように思えました。

通年で暖かく、過ごしやすいマレーシアのクアラルンプールで気持ちもリラックスしながらも、世界の研究者たちが盛んに質疑しており、歯科の学会とはまた違った雰囲気、興味をそそられました。

来年はインドネシアのジャカルタで行われますので、ぜひともご参加下さい。最後になりますが、日本の最先端の映像技術研究者たちは、外見・中身ともにかんりの秋葉系だった事を加筆しておきます。

**専門医・認定医取得**

広報委員長 井上 富雄

- 日本老年歯科医学会認定医
- 今井智子(高齢者歯科学教室 助教(員外))
- 石原 広(高齢者歯科学教室 助教(員外))
- 岡根百江(高齢者歯科学教室 助教(員外))
- 小澤宏亮(高齢者歯科学教室 助教(員外))

**行事予定**

広報委員長 井上 富雄

- 3月 1日(月)~5日(金):臨床実習終了時 OSCE
- 3月 3日(水):共用試験CBT再追試験
- 3月 6日(土):ハイテクリサーチセンター研究成果発表会
- 3月11日(木):共用試験OSCE再追試験
- 3月13日(土):文部科学省戦略的基盤形成事業研究成果発表会
- 3月18日(木):卒業式
- 3月25日(木):大学院歯学研究科修了式
- 3月29日(月):第103回歯科医師国家試験合格発表
- 4月 2日(金):D2-D6オリエンテーション
- 4月 3日(土):大学院歯学研究科入学式
- 4月12日(月):入学式

**診療統計(平成22年1月分)**

医事課長 久米 徳

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,272	751.0	776.3	721.1
入院患者	401	12.9	15.5	9.5

**編集後記**

口腔病理学教室 山本 剛

寒暖の差がはげしく、花粉が飛んだり雨が降ったり体調管理の困難な季節となりました。先日、インターネット上で偶然地元「Oral Market」なる店が存在することを知り、近所でしたので立ち寄ってみました。各種の歯ブラシ・歯磨剤を置いている狭いお店でした。編集後記のネタにも困っていたので、「学内の広報誌に掲載してもいいですか?」とお尋ねしてビックリ。なんと昭和大学出身の先生が、院内では出来ない歯ブラシの話患者さんとゆっくりするために作ったお店だそうです。ほぼすべての商品がご自身で試されているようで、その試みには頭が下がります。卒業後に柔軟な発想で活躍できる歯科医師を輩出すべく教員として大きな責任を感じました。

試験期間も重なり大変お忙しい中、原稿をご執筆下さった方々に心より感謝いたします。